

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200547		
法人名	社会福祉法人 もみの木会		
事業所名	グループホーム もみの木の家		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷1804-1		
自己評価作成日	平成28年12月27日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎のホームの為ホーム側には山、川、田畑、イチゴハウス、河川公園、運動場があり四季折々楽しめる環境である。永続職員も多くその分平均年齢も高いが利用者様と日々の生活をざわざわすることなくゆっくりと過ごすことが出来ており、地域の方とも馴染みの関係となっておりホーム運営に役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつもニコニコ笑顔で対応、責任ある行動を」「自然に触れながらゆっくりと温かく、その人らしく暮らせるように支援します」等をホームの運営方針として掲げ、職員は入居者との関わり合いを大事にして、日々の職務に従事している。近年、運営推進会議にて防災面についての意見交換がなされ、その意見を元に避難しやすい居室窓の改装工事・非常口の設置工事等を実施しており、地域に住む方・家族と協力して生活支援を行っている。定期的に出す事業所便りには、入居者の生活状況の写真や、また担当職員から手書きのお便りが掲載されており、家族の安心にも繋がっていると感じました。また当ホームは開設以来、入居者のインフルエンザの発症がなく、それは適切な体調管理やアルコール消毒・うがい・手洗いの継続的な推奨の賜物であり、今後もこの安全安心なホーム運営を続けてもらいたと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り後、理念を唱和し笑顔でゆっくりと1日を過ごして頂けるように努めている。	「いつもニコニコ笑顔で対応、責任ある行動を」「自然に触れながらゆっくりと温かく、その人らしく暮らせるように支援します」等をホームの運営方針のひとつとして掲げ、職員は協力してケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で開催される運動会や子供会主催の救命救急講習会などに参加や、中学生の職場体験学習も受け入れ交流を図っている。	以前、老人会へ出向きグループホーム・デイサービス・特別養護老人ホーム等の運営や認知症について地域の方に説明した事もある。また学生の職場体験・介護実習は積極的に受け入れ、地域に認知症ケアの技術知識を伝える事もあり、また入居者の方もその交流を楽しんでいる。里の運動会や子供のおみこし等、行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事等に参加した際に話しをし理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の活動状況や職員の取り組んでいる事等を報告しアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。	12月の会議には地区長・民生委員・行政職員・法人関係者等が参加し、利用者の生活状況や行事計画等について報告・質疑応答がなされている。運営推進会議で実際にでた意見を元に、避難しやすい居室窓の改装工事・非常口の設置工事等を実施しており、その意見をホーム運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアプランが利用者様の思いが反映されているか確認されアドバイスを頂いたり、利用状況を報告し事業所の実情の理解を得ている。	読み聞かせ・歌のボランティアを市町村より、派遣して頂いている。事務運営についての相談連絡については、その都度行っており、その意見を運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	殆どの職員が身体拘束の意味を理解している。徘徊者の場合、玄関にチャイムを取り付けている事で行動制限することなく、転倒防止等にもつながっている。	身体拘束をしないケアについては、定期的に同一法人運営の特別養護老人ホーム・デイサービスの職員と合同で勉強会を実施している。スピーチロック(言葉による抑圧)については、不安感・ストレスを感じないよう、例えば「ちょっと待って下さい」と言う時も必ず待つて貰う理由を伝えるようにしている等、工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はあっていないが、不適切な言葉掛けには十分注意を払っている。職員同士、言動等を含めお互いに注意出来る環境を作って行き虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については勉強会等を通して学んできている。必要な方に応じてその都度対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前面談や見学行っていただき説明を納得されてからの契約に繋げている、解約時も説明を行い納得され理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等を利用し気軽に意見、要望等が話されるように働きかけている。	定期的に出す事業所便りには、入居者の生活状況の写真や、また担当職員から手書きのお便りが掲載されており、家族の安心にも繋がっている。また家族に対して運営推進会議の参加のご案内を出している。利用者及び家族より、重要意見が出た場合は記録に残し、真摯に対応している。また夏祭り・バーベキュー等の行事で家族とのコミュニケーションを深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時施設へ出向き、要望や提案等があれば受付、可能な限り対応している。	日々の申し送りや会議等で職員意見を随時聴き、真摯に対応している。また勤務面(冠婚葬祭・シフト調整等)でも、出来る限り本人の意向に沿うようにしている。ヒアリングさせて頂いた職員の方より、働き安い職場との言葉を聴く事も出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の自己啓発も含め、自分自身の行っている業務等についてアピールするよう指導し、特に賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員毎に必要なと判断された研修については施設内外を問わず、本人からの申し出のある分も含め、適時参加するよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会に月1回出席し、意見交換したり、相互に訪問したりして、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で要望や不安な事等を聴き取り安心されるように密な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、契約時やケアマネジャー等に困らている事や要望等を聴き取り信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聴き取りを行い必要としている支援を見極めサービス開始に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや床拭き、食材切り等で利用者様の出来る事での一方的な介護にとどまらないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事毎への参加や毎月のおたより等を通じ、御家族との連携がスムーズに取れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が築いて来られた事柄を把握し、故郷めぐりや思い出の地を見学したり、利用者様の希望に添える様に努めている。	友人・知人の方が来訪した際は、居心地よい雰囲気作り(笑顔で挨拶・お茶出し等)実施している。戦時中の思い出のある場所に行きたいという方もいるので、同行する事もある。長年のホーム運営の中で培った馴染みの方との関係性構築の成果もあり、正月の角松や地域のお野菜を差し入れてくれたりと、ホーム運営を支援してくれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志、居室を自由に行き来出来る様にしている。食事席や利用者様間での取り方等、職員が目配りや気配りを行い、孤立を回避している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された御家族が訪問されたり、面会等に出向いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時、入浴時、外気浴時等ゆっくりと話をしながら希望が言える雰囲気作りを行ったり、御家族から利用者様の思い等を聴き取るようにしている。	本人の「思い・伝えたい事」を把握できるよう、表情や性格・体調等を日々観察し、思いを伝えやすい関係づくりに努めている。また話しかける際は目線を合わせ、聞き取りやすい言葉使いに配慮している。日常のちょっとした変化に職員が気づき、本人の思いに応じた対応に変化させた事で、入居者の笑顔が多くなったケースも多々ある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を大事にし裁縫、野菜作りが得意なことがで馴染みやすく暮らして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、食事摂取量、健康チェックシートへの記録を行い、職員が共有出来る様に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なプランの見直しで利用者様、御家族に要望などを聴き取り計画書を作成したり、心身状態が変わられた際も利用者様、御家族と話をし計画書を作成している。	担当職員とケアマネージャーが協力して、利用者のメンタル面・体調面に考慮したケアプランを作成し、ご家族の要望も聴きとりを行っている。生活状況の変化があれば、随時計画を変更するよう運営体制が整っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン実施表、健康チェックシートの記入等で職員間で共有しその方らしい生活が出来られるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	親しい方との交流が出来られる様にディサービスへ出かけたりして地域との繋がりを保っている事で安心して暮らされるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで本の読み聞かせや地域の方を招き開催するバーベキューでより深く安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続、職員の受診支援、定期的往診、緊急時対応も可能であり、専門医の往診も適宜に受けている。	かかりつけ医を把握し、本人及び家族が望む医療機関での受診支援を行っており、又往診も実施している。薬の管理については、誤薬が生じないように何重にも確認体制を策定し、声かけて投与している。当ホームは開設以来、入居者のインフルエンザの発症がなく、それは適切な体調管理やアルコール消毒・うがい・手洗いの継続的な推奨の賜物だと感じた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職へ相談を行い専門的な知識を学び適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、医療機関と話し合いその都度検討している。また入院期間中の様子が分かる様に病院へ出向いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職不在のため医療的処置が出来ない事を御家族へ説明し同意を得ているが重度化された場合でも可能な限り対応している。	重度化した場合は本人・家族が望む場所(医療機関や他施設等)で過ごして貰うようにしており、ご家族にもその旨説明している。また勉強会や救命救急講習の機会を活かして、出来る限り緊急時に迅速に対応できる技術知識を習得できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回母体と地域の子供会主催の救命救急講習へ参加し実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日、自主検査チェック表を活用し火気点検と戸締り点検を行っている。月1回の通報訓練と年2回の消防避難訓練を行い運営推進委員会議では訓練報告を行い災害時の話し合いを行っている。	ヒアリングした職員より、火災発生時の基本行動(初期消火・連絡先の把握・避難経路の把握・消火器具の操作)の把握を確認する事ができた。また避難しやすいように、非常口や居室窓の改修工事を実施する等、火災に対して安全を確保する意識が高いホームである。	停電時の対応・地震時の対応・風水害時の対応・土砂災害時の対応についてマニュアルを策定されているので、今後は実際に地震水害等に対する災害対応訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のあった声掛けで気分を害されないように対応している。	長年の生活支援を行っていく中で、個々の利用者の性格・好み等を把握していき、本人のプライバシーや羞恥心に配慮したケアを心がけている。また法人本部で定期的に関行される接遇研修に参加し、人格を尊重したケアについて学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で何気ない言葉や希望を聞き、思い出の地へ出かけたりや顔見知りの地域の方とのバーベキュー開催へと繋がっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように利用者様の可能な限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え、外出、行事等に利用者様と一緒に準備をし気持ち良く過ごして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のお好きな物を献立に取り入れたり、旬の食材を取り入れたり、食材切りや食後の片づけ等を行っている。	運営状況の変化があり、法人本部で調理された料理(給食制)を取り入れている。このまま給食制とするか、ホームで自炊するかは現在検討中の段階である。健康チェックシートを作成し、残食状況等も記録している。季節の行事により、献立を変化させ、食事を楽しんで頂く工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならないようにチェック行ったり、夜間帯も水分摂取が出来る様に居室に準備を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは常習化しており、義歯の洗浄剤使用や歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄誘導を行っており尿取りパット等の使用を減らす様にしている。	排泄記録をとり、出来る限り本人の残存能力の応じた排泄支援を実施している。また水分・乳製品・食物繊維等の摂取に配慮し、便秘対策にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為食事、運動、水分摂取等利用者様個々に対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番を利用者様同志で決められたりして、入浴時も職員に御家族事や知人の事、ホームでの生活事など話され、入浴を楽しまれている。	入居者の好み(湯の温度・入浴回数や時間等)に応じた入浴支援を実施している。入浴中は入居者から様々な話をされるが、職員はコミュニケーションをもっとも取れる機会だと認識している。また更衣室にはエアコンが設置されており、浴室と更衣室の急激な温度変化による負担をなくすよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が何時でも居室で休息出来る様に室温調節に努めたり、昼食後の短時間午睡に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の活用や処方箋個別で服薬の変更時は症状の変化を見落とさないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担で生き甲斐へと繋がったり、気候に合わせて戸外へ出る事で気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様同志で話されていることを聞き逃さず外食支援や毎年行われている地域の案山子見学や花見などを行っている。	ホーム前にはベンチが設置され天気が良い日には、そこで休む方もいる。入口からだと綺麗な河川があり、近隣には運動場もあり、日頃の散歩コースとなっている。近隣のやすらぎ公園や季節の花(桜・つつじ・菖蒲等)の見学に行く事もあり、外出支援の計画を策定し、入居者に対し外部環境と触れ合う機会を提供している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所管理になっているが、所持しないと不安になられる利用者様に関しては御家族との話し合いで少額を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族との連絡方法として携帯電話の所持の方や手紙のやり取りや電話使用は何時でも利用が出来る様に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに人感センサーの取り付けまた場所が分かる様に表示を行ったり、利用者様の状態に合わせて手摺りを新たに取り付けなど状況に合わせて行っている。台所が対面式になっており、匂い、音、温度など心地よいものとなっている。	訪問させて頂いた際、リビングにて食後の談笑を楽しむ入居者の姿を見る事ができた。リビング機の配置も行き止まりないよう設置されており、歩行が困難な方にとっては歩きやすいと感じました。入居者の皆さままで製作された染物や木の飾り物が掲示されており、日々の生活状況がわかる。お風呂・トイレ・居室前に手造りのかわいい表札があり、字が大きいので間違いも少なくなるでしょう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でお互いの居室訪問でゆっくり過ごされたり、ソファで過ごされたりとそれぞれに思い思いに過ごされておりゆっくり過ごして頂けるようにお茶の提供なども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持参されている方もおられ毎朝、夕お参りされたり、自宅で使用されていた椅子などを置かれたり、御家族が孫様の写真などを飾られ居心地良いものとなっている。	見学させて頂いた居室は、綺麗に整理整頓されており、清掃も毎日実施されている。また壁紙の汚れや匂いもありませんでした。入居者の各々の好みに応じた居室造りの支援がなされており、飾り物や写真の掲示があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂、トイレ、居室表示をわかりやすくし混乱なく安全に生活が出来られる様にしている。		